

学生のラーニングアドバイザコメントに対する 解釈と反応 4人の学生のケーススタディ

野口順子

アブストラクト

自立学習において省察や、フィードバックの重要性はすでに多くの研究者の中で容認されている (Bangert-Drownsら、1991) が、それらが実際どのような役割を果たし、どのような影響を学習者に与えているのかについてはあまり研究が進んでいない。当研究では、神田外語大学のSALCによって開講されている自立学習モジュールにおける、学生とラーニングアドバイザの筆記によるコミュニケーションの過程について調査する。具体的には、ラーニングアドバイザのコメントが学生によってどのように解釈され、どのような影響を彼女らの思考に与えているのかについて精察する。

背景：自立学習モジュール

神田外語大学のセルフアクセスラーニングセンター (the Self-Access Learning Centre : SALC) では複数の選択制の8週間におよぶ英語による自立学習モジュールを提供している (詳細はNoguchi & McCarthy, 2010; Mynard & Navarro, 2010; <http://thesalc.weebly.com/>)。これらのモジュールを利用し、学習者は各自に割り当てられた1人のラーニングアドバイザのサポートを適宜受け取りながら自立学習を進めてゆくことができる。この担当ラーニングアドバイザは学生からの希望がない限り変更することはない。

このモジュールは主に2種類あり、1つ目のパックはファーストステップモジュール (First Steps Module: FSM) と呼ばれており、1年生が主な対象者である。このモジュールでは目標設定、教材や学習アクティビティの適切な質および量の

選択等を学ぶことを目的としており、学習者はラーニングアドバイザーのサポートのもと、毎週、ユニットごとの課題およびそれに対する考察記録を提出し、これらの提出物はラーニングアドバイザーからのコメントが加えられて返却される。これらの課題や1学期に2度行われるワークショップを通し、学習者は効果的な学習計画の立て方を学ぶ。

表1. FSMの内容

ユニット	説明
ユニット1: ニーズ分析	自身が英語を学習する目的を考え、どのような英語スキル・知識に焦点を当てるかをゴールとして設定する。
ユニット2: 時間管理	自身の時間の現在の使用状況を把握し、また、時間を効率よく管理するための様々なコツを学ぶ
ユニット3: ラーニングスタイル	様々なラーニングスタイルについて学び、自分にとってどのスタイルが合っているのかを学ぶ。
ユニット4: 感情ストラテジー	自身の現在の英語に対する自信のレベルを把握し、また、様々な感情を管理するためのストラテジーを学ぶ。
ユニット5: リソース	様々なリソースの長所や短所を分析し、自身のゴールに最適なりソースを探す。
ユニット6: 学習成功者	学習成功者になるための様々なアイデアについて学び、自身をより良い学習者にするためにどうすればよいか考える。
ユニット7: 学習ストラテジー	様々な、役に立つ学習ストラテジーについて学ぶ。
ラーニングプラン	7週間に渡って学んできた全てを集大成し、8週間分の学習プランを作成する。

(Noguchi & McCarthy, 2010より意識および転用。なお、モジュール形式は現在では改変されて実施されている。)

2つ目のモジュールは、ラーニングハウトゥーラーンモジュール (Learning How to Learn: LHL) と呼ばれる1年生対象のものまたはソフォモアモジュール

(Sophomore Module: Soph) と呼ばれる 2 年生対象のものである。これらは、内容は同じであるが、履修者の学年で名前が異なる。また、このパックは FSM を終えたものでなければ履修することはできない。このパックでは、実際に自身が立てた計画を実践し、毎週、行った学習アクティビティとそれに対する考察記録である学習ジャーナルを提出する。これらの提出物もラーニングアドバイザーからのコメントが加えられて返却される。この毎週行う、自身で計画実践した自立学習についての、ラーニングアドバイザーとの筆記対話、並びに 1 学期に 3 度実施される面談を通して、学習者は自身の言語学習に対する考え方、また学習方法についての認識を深める。

表 2. LHL/Soph の内容

名称	説明
ラーニングプラン	FSM の 7 週間に渡って学んできた全てを集大成し、8 週間分の学習プランを作成する。
学習日記	学生は、8 週間に渡って、毎週自身の学習の記録および、自身の学習に対する考察を学習ジャーナルに記す。これに対し、LA はコメントを通して、彼らの自立学習スキルを伸ばすための対話を繰り返し広げる。
ファイナルレポート	8 週間の自立学習を終了後、それまでの学習を振り返り、500 ワードの評価レポートを作成する。
面談	1 学期中に少なくとも 3 回、LA と面談を行う。面談においては、LA は、学生の進捗状況を確認し、必要に応じて様々なアドバイスをしたり、学生の考察を深めるための対話をする。

(Noguchi & McCarthy, 2010 より意識および転用。なお、モジュール形式は現在では改変されて実施されている。)

研究目的

このモジュール、特に LHL および Soph においては、学生とラーニングアドバイザーとの筆記対話が非常に重要な役割を果たしていると考えられており、その対話、

特にアドバイザーからの様々な視点からの質問によって促進された自己との対話を通して、自身の言語学習に関する考え方や言語学習の習慣性についての理解を深めていくことが望まれている。(Noguchi & McCarthy, 2010; Mynard & Navarro, 2010) また、最終的にはアドバイザーとのそのようなクリティカルな会話を内在化していくことにより、自身の学習を自身で管理しながら、自身の目標達成に適切で、なおかつ自身のライフスタイルや性格にも最適なものにしてゆけるスキルを習得していけると考えられている。(Noguchi, 2009)。

このラーニングアドバイザーのコメントの重要性を踏まえ、これまでいくつかのラーニングアドバイザーコメントに関する研究が行われている。しかし、どれだけ試行錯誤を重ねて与えられたコメントでも、学生がそのコメントをラーニングアドバイザーの意図通りに解釈しなければ、ラーニングアドバイザーが望んだ通りの結果を見込むことは難しいであろう。しかも、この自立学習モジュールは、学習者の第二言語である英語でやり取りされているため、誤解等が起こる可能性が低いとは言えない。更に、ラーニングアドバイザーは、自身のコメントの意図を学生に明確に伝えたいと思っても、筆記によるアドバイスには限界がある。例えば、面談形式の場合であれば、声の調子、顔の表情等でもっと精巧に自身の意図を伝達し、また、誤解が生じているかどうかも学生の言語および非言語の反応を伺うことで汲み取ることが可能である。しかし、筆記形式になったとたん、そのような微細な情報伝達が難しくなり、当然、面談形式と比べてコメントの意図が伝わりにくく、誤解につながるケースが増えると言っても過言はない。また、図1に図式されるように、筆記形式アドバイジングのプロセスはいくたびも情報の変換(思考から文章へ、文章から思考への変換)処理および解釈をくり返す。このような制限されたコミュニケーション手段を通してのアドバイジングにおいては、なかなかアドバイスが効果的に機能しているのか知ることは難しい。この、実際に何が起きているのかあまり解明されていない、筆記アドバイジングの過程に、微かな光を当てて、少しでも理解を深めてゆこうというのがこの研究の目的である。具体的には、学生がラーニングアドバイザーのコメントをどのように解釈

しているのか、4人のモジュール経験者のアプローチにつき精査してゆく。したがって、当研究の課題は以下ようになる。

研究課題

学生はラーニングアドバイザーのコメントをどのように解釈しているのか。

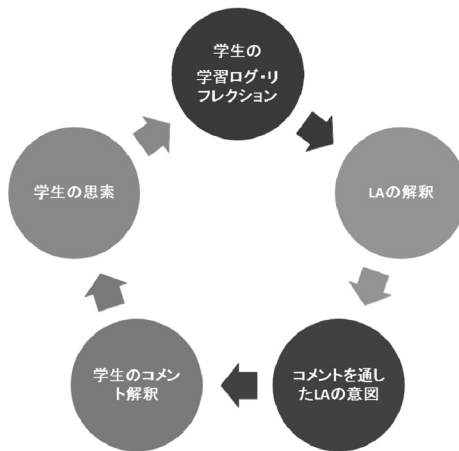


図1. 筆記アドバイジングによる学生とラーニングアドバイザーの関わりプロセス

参加者

この研究では、2014年春にモジュールを履修した8人の日本人学生（全員2年生）および彼らの担当LA4人にインタビューをしたが、本稿では、そのうち、1人のLA（サム・男性）が担当した4人の学生（全員女性）についての結果を簡単に報告する。4人を担当したサムは彼女達と同時期に当大学にLAとして着任した。彼の専門領域は動機づけなどの感情面のサポートである。当大学勤務の前は、英会話講師として働いていた。学生参加者4人の詳細は、以下の表に簡単に記載する。

表3. 学生参加者4人の詳細

	履修済 モジュール	モジュールにおける ゴール	完了週数	ハイライト コメント数	モジュール 自立学習 時間数(分)	モジュールを履修した理由 (シヨウワコは継続しなかった理由も含む)
シヨウワコ	FSM/Soph	クラスディスカッション・ スピーキング・語彙	4週半	4	345	<ul style="list-style-type: none"> 仲間：マユミを含めて友達4人と一緒にやっていたため。 英会話の機会：LAと話す機会がたくさんあると聞いたため。 継続しない理由：空きコマがなくなり忙しくなった。また、チューターで英語を話す機会ができたため。
サキ	FSM/LHL/ Soph	英会話・スピーキング・ 語彙	6週 但し多くのセクション が抜けている/3週目 のみLAコメント	3	615	<ul style="list-style-type: none"> 英語自立学習継続のサポート：自分だけではやれない。サボってしまう。誰かに見てもらってやらなきゃと恐ろしいとやらないから。 言語学習方法：今後の違う言語を学ぶためのアイデアをもらった。
マユミ	FSM/Soph	英会話および クラスディスカッション・ スピーキング・語彙	7週	6	423	<ul style="list-style-type: none"> 英語自立学習継続のサポート：1年の最初に自分だけでやって、いまいち上手いから。相談できる人がいなかった。 英会話の機会：英語を話す機会をもっと増やしたい。 英語学習の機会：フリーライティングができる。先生と会って話す機会が増えた。 LAとの人間関係：SALCに来るとサムが話しかけてくれる。IELTSのことを心配してくれる。サムのことが大好き。
アイナ	FSM/LHL/ Soph	英会話・スピーキング・ 発音	8週	6	565	<ul style="list-style-type: none"> 英語自立学習継続のサポート：やめてしまうとせっかく積み上げてきた習慣が崩れてしまう。サムがいるから、サムに提出しなきゃと思うとつづけられる。

データ収集プロセス

プロジェクトの流れとしては、下記のように実施された。

1. 業務確認ミーティング
2. 学生がLAコメントのハイライト作業を実施
3. 学生が作業済のモジュールを提出
4. 研究者がハイライトされたLAコメントを分析し、インタビュー質問作成
5. 学生およびLAとのインタビューにて不明・疑問点等確認（録音および録画）
6. インタビューデータ分析
7. データ分析から得られた調査結果をまとめる

上記の作業の中で、学生の作業内容およびインタビュープロセスについて下記に詳説する。

学生インタビュー

当インタビューは2014年秋学期に学生の母語である日本語で実施され、前学期（2014年春学期に）行われたモジュールにおけるLAとのやり取りについて、学生に尋ねることを目的とする。学生が実施した具体的な作業内容としては、学生自身のSophomoreモジュール内に記入されたLAのコメントの中で、「自身の学習または学習者としての自分自身について深く考えさせられたコメント」をハイライトマーカーで塗ってもらった。単語、フレーズ、文等、どの単位で区切ってもよいと指示した。また、学生に作業内容を理解してもらうために、具体的に、下記のような例を挙げた。

1. LAコメントがきっかけになって、自分の学習に関わる様々なことについて深く考えさせられた。（例：自分の教材は実はあまりゴールに効果的で

ないと気づいた。)

2. LAコメントがきっかけになって、自分の癖、習慣、傾向性が見え、自分
はどんなタイプの学習者なのか理解が深まった。(例：私は人見知りをし
てしまうけれども、実は、人と話すことが好きだと気づいた。)

ハイライトしたコメントの横には、そのコメントが自身の学習または学習者としての自分自身について深く考えさせたとする理由を記入してもらった。これらの学生のハイライトしたコメントおよびハイライトした理由を分析し、インタビューで確認する事項をまとめた。

次に、インタビュープロセスについて説明する。インタビューは防音の部屋で実施され、ビデオおよびICレコーダによって録画および録音された。インタビューにおいては、学生がハイライトしたコメントを1つ1つ追いながら、LAコメントをハイライトした理由を口頭で再度詳しく説明してもらい、更に、何故LAがそのコメントを書いたと思うのか回答してもらった。また、研究者が確認事項・不明点がある場合には、逐次、質問した。インタビューにおける主な質問は以下の2点である。

1. 何故このLAのコメントが自身の学習または学習者としての自分自身について深く考えさせると感じましたか？
2. 何故LAはこのコメントを書いたのだと思いますか？あなたに何をしてもらいたかったのだと思いますか？

IAインタビュー

学生のハイライトしたコメントの分析後、スケジュール調整により、学生とのインタビューと前後して、担当LAともインタビューを実施した。このインタビューは英語で実施された。LAには、ハイライトしたコメントについて、何故そのコメントを書いたのか、その意図について、具体的には、コメントを読んだ学

生にどのような変化を期待していたのかを説明してもらった。その後、LAがその1学期のモジュールにおけるアドバイスを通して学生の自立学習のどの点においてサポートを心がけていたのかを回答してもらった。インタビューにおいて実際に尋ねた質問は以下の通りである。

1. 各コメントを書いた時の意図は何ですか？（What was your intention when you wrote each comment?）
2. アドバイスを通して、学生のどのようなスキルを伸ばそうと試みましたが？（What kind of skills did you intend to help students develop through your advising?）

分析方法

モジュールに記載された情報（LAと学生のモジュール中のやりとり、学生がハイライトした17のコメント、学生が深く考えさせられたと思う理由）およびインタビューで収集した情報（学生のより詳細なハイライトしたコメントに対する説明、LAがインタビューで語ったコメントの意図）は全てエクセルの表にまとめられ、4人のコメントに対する解釈において顕著なパターンをコード化した。さらに、そのコードにしたがって、4人のモジュールやインタビューを通して集められた情報が再度解釈された。

分析結果

分析の結果、以下の4点の傾向性を特記すべきテーマとして本稿に報告する。以下、それぞれのテーマを具体的な例とともに詳説する。

1. 英語の壁と自己フィードバック：ショウコ

ショウコはサムのメッセージを受け取る前に、英語が壁になっており、英文解釈の誤解によって生じたメッセージの誤解がいくつか見受けられた。例えば、下

記の4文などは、日本人の苦手な第5文型や仮主語が入っていたり、複文であったりしているため、意味がつかみにくかったようだ。また、「Prioritise」という単語の意味も分からなかったと話してくれた。

表4. ショウコが難しいと思ったLAのコメントと彼女の解釈

	LAのコメント	ショウコの解釈
1	I'm glad you got some study done. 少しでも勉強ができてよかった。	あなたがいくつかの勉強をえているのがうれしい？
2	If you are strict and make time in your schedule for talking, you should be able to do it. もし自分に厳しくし、会話の時間を取るようにすれば、できるはず。	もしきびしく、そしてはなすことをじかんどおりにできたら？やぐが難しい。
3	You don't have to necessarily practise everyday, as long as you have a balanced learning plan. 学習プランのバランスがよいのであれば、必ずしも毎日練習する必要はないよ。	文法、意味がわからなかった
4	It will probably be too much to do grammar and vocabulary for this module. モジュールで、文法も語彙もやるとなるとちょっと大変だと思うよ。	意味がとりにくい

興味深い点は、ショウコはコメントの解釈が難しく、自分なりに推測する際に、自分への叱咤激励として受け止めるところである。例えば、“how will you remember the new vocabulary”を聞かれた際に、あまり単語勉強してないよと言われたと受け止め、「Why have you started to look at grammar and use TOEIC?」と言われた際に、「単語でなくて文法も大事だよと言ってくれた」と解釈している。これは、まさに Butler (1995) のいう所の「自身が作り出した、自身に対する (self-generate)」フィードバックを反映しているように解釈できよう。

2. コメントを基に行動をとる：ショウコ・サキ・マユミ

ショウコとサキとマユミは、何かのフィードバックをもらった際に、それをそのまましておかず、自分なりに検討してそれに対して何らかの行動をしめしている。

ショウコは、「How will you remember the new vocabulary?」というコメントをきっかけに、単語帳を作りはじめた。またミーティングでマユミと一緒に会話練習することを薦められて、一緒に英会話をするようになったという。さらに、一緒にインドネシア人の交換留学生のチューターを担当し、英語を教えてもらうようになった。

サキの例を見てみると、彼女は時事トピックについての英会話の上達がゴールであり、新聞等を利用して単語を学習していたが、英会話の練習をしていないことをサムに指摘された。このアドバイスを受け、翌週に友人や先生と実際に会話をした。また、学習した単語を実践で使うことを薦められ、学習した単語を使うようにも心がけるようになった。また、インタビューでは、定期的に会話練習をするようにというアドバイスに対して、そうすることで、学習した単語を使う回数が増え、その知識の定着につながり、自分のものにしてゆけるのだということまで気づいたと話してくれた。さらには、LAのこのようなコメントに対して、自分では気付かないうちに、学習内容が偏ってしまうので、他の人に客観的に指摘されることがとても助かることも話していた。

表5. サキがハイライトしたコメントとその理由

	LAのコメント	このコメントが深く考えさせるといった理由
1	使うアクティビティはしていないの？ But no use?	こういうコメントは、自分のスキルを上達させるための他の方法を思い出させる。
2	でもスピーキングの練習は？ but how about speaking practise?	プラクティスセンターに行って英会話の練習をするように勧められた。そのアドバイスはすぐ役に立った。

	LAのコメント	このコメントが深く考えさせるといった理由
3	<p>ニュースから学んだ単語は使うことができた？スピーキング練習を定期的にできるようにスケジュールを立てると効果的かもね。どう思う？</p> <p>Did you get to use some of the vocabulary you learned from the news articles? It might be effective to try and make a regular schedule for speaking practise. What do you think?</p>	<p>自分のモジュールでのアクティビティを評価する方法を教えてもらった気がする。単語帳を作るだけで、学んだ単語を会話やライティングに使っていなかった。使う練習をしないと、きちんと覚えて会話やライティングに活用できるようにならないと気づいた。</p>

マユミの場合は、自分が英会話をゴールとしているのにも関わらず、TOEICを教材としていることをサムに指摘され、その教材が本当に自身の英会話力向上に貢献するかを吟味する。その結果、彼女は英会話の多く含まれた映画を観て、その映画についてショウコと英会話するというアクティビティへと変更した。

他の例として、マユミは単語50個を毎週必死に学習していたが、サムの「今の勉強量に満足している？」という問いかけをきっかけとして、自身の自立学習勉強量および自身の満足度について思考を深める。そしてその結果、「沢山の量を勉強していても、楽しく学べていないなら意味がないのかなと考えさせられた！量よりも質のかなと思った。」と気づくに至る。その後、彼女は1週間の学習目標を50個をなんとなく覚えるよりも、10個をしっかりと学ぶことに変更する。このように、ラーニングアドバイザーのコメントの解釈が実際の行動に変化をもたらしている。

表6. マユミがハイライトしたコメントとその理由

	LAのコメント	このコメントが深く考えさせるといった理由
1	TOEICの本には、自分が学びたいと思っているような語彙が載ってる？ Does the TOEIC book contain the kind of vocabulary you want to learn?	私の選んだMaterialはゴールへの良いMaterialになるのか考えさせられました。結果、ならないなと思い、Materialを選びなおしました。
2	今の勉強量に満足している？ Are you happy with this amount?	沢山の量を勉強していても、楽しく学べないなら意味がないのかなと考えさせられた！量よりも質なのかなと思った。

3. 自立学習への理解：アイナ

次に、アイナについて特徴的なのは、彼女がサムの「こうしろ」と指示するのではなく、「君はどう思う？」と問いかけてくる姿勢を通して、自立学習がどんなものであるかという理解を深めている点である。例えば、アイナが自身の英会話を分析し、最初に頭の中で日本語で考え、それを英語に翻訳してから発話するため、時間がかかってしまうという問題に気づく。英語を日本語で話すように流暢に話せるようになりたいとサムに伝えた際、彼は「どうしたらその練習ができると思う？」と質問する。アイナはサムが答えをくれることを期待していた自分に気づき、このコメントのおかげで「自分で見つけた欠点の解決策を、自分自身で考えだすきっかけになった。これがSelf-studyなんだと、こうするのが学生の勉強スタイルであるべきなのでは、と思った。」という発見をする。

また、次の週に彼女は同じような発見をするが、その経緯は非常に興味深い。彼女が英会話練習をある教師をしている際に、聞き返されることが何度かあり、自身の発音、特に /t/ と /l/ を練習したいとサムに伝える。サムは自分の意見としては、アイナはそんなに発音を気にしなくてもよいと思っていた。また、聞き返される理由は、その教師がただ単に聞こえなかった可能性もあったと思ったが、もしアイナがそれに焦点を当てたければ、それが彼女の選択であり、彼女に「自分

で決めてよい」というメッセージを送りたかったため、「発音が気になるなら、練習するためのアクティビティを一緒に探そう、もし君が望むのであれば。(If you're concerned about pronunciation then we can find some activities for you to practice if you wish)」と伝える。そのサムの、アイナ本人に決断をしてもらいたいという思いがアイナは汲み取り、「私がやろうと思わないならSelf-studyは成り立たないんだと再認識した。」と言う。また、インタビューでこのコメントの解釈について質問した際、彼女は、この「君がそうしたいと思うなら (If you wish)」というコメントを読み、「このモジュールも、自分が履修登録の際になんとなくやろうと思ったが、その決断があるから今自分はモジュールを続けているんだ」と、自身の一瞬の選択の重みを再認識したと教えてくれた。

表7. アイナがハイライトしたコメントとその理由

	LAのコメント	このコメントが深く考えさせるといった理由
1	どうしたらその練習ができると思う？ Do you have any ideas about how you're going to practise this?	これがSelf-studyなんだとこうするのが学生の勉強スタイルであるべきなのでは、と思った。
2	もし君が望むのであれば if you wish	私がやろうと思わないならSelf-studyは成り立たないんだと再認識した。

4. 自身への理解：マユミ・アイナ

最後に、マユミ・アイナ双方に当てはまる点であるが、彼女達は、ラーニングアドバイザーからのコメントをきっかりとして、自分自身についての理解を深めようと常に意識しているように思える。その様子は彼女達のコメント解釈の諸所に伺われる。

まず、マユミが自身の理解を深めたコメントは以下の3点である。

表 8. マユミがハイライトしたコメントとその理由

	LAのコメント	このコメントが深く考えさせるといった理由
1	もう少し自分に厳しくしなければいけないんじゃないかな。 You might have to be strict with yourself!	英語を使う時間を作ろうとはしていたものの、全然進まなかったのですが、このコメントでもう少し一歩進んでみなくては！とやる気をあげさせてくれました。また、私は「やる」と言っても結局何もできないな（有言実行できないな）と思いました！なので、もっと他から強要されなければもっと前には進めないのかなと思いました。
2	これもいいリフレクションだね。復習が上手くいってよかったね。 Good reflection again. I'm glad your reviewing was successful.	褒められることでじょじょに英語に自信がついてきました。同じこと（Goodなど）を書かれても、内容がPositiveであればモチベーションは上っていました。
3	プラクティスセンターに行って話す内容は考えてある？ Have you thought about what you will talk about at the practice center?	今までに何度かPractice Centerを使うことは言っていたのですが、なかなか使えませんでした。このコメントで、Practice Centerにいけない理由を深く考えさせられました。多少、少し恐ろしく（英語を人前で話すこと）なっていて、行きにくかったのだと思います。

1つ目は、サムの「自分に厳しくしなければいけないんじゃないかな。(You might have to be strict with yourself!)」と少し厳しめのコメントである。学期の前半では、マユミは英語自立学習の時間を確保するのに苦労しており、特に学習した単語を実践で使う練習をする時間が取れていなかった。2週続けて、計画したけれどできなかったマユミに対し、サムはこのようなコメントを書いた。インタビューでマユミは、このコメントによって、自分の他人に言われないとなかなか実行に移せない傾向性や、その根本となる、人に頼ってしまっている傾向性に気づいたと言った。そして、その傾向性を変えなければいけないと決心したとも教えてくれた。次の週には、ショウコと映画を鑑賞し、その感想を2人で英語で話し合うという実践ができ、なかなか英会話練習ができない自分から一歩を進むこ

とができた。

2つ目は、サムの「いいリフレクションだね。復習が上手くってよかったね。(Good reflection again. I'm glad your reviewing was successful.)」というコメントである。このコメントをきっかけとし、マユミは、サムがいつも惜しまず与えてくれる褒め言葉や極め細かいコメントについて思いを巡らした。そして、その多くの褒め言葉によって徐々に自分自身のリフレクションを書くための英語力について自信がついてきたことに気づく。インタビューでマユミは、最初の頃は自分の英作文に自信がなかったため、褒め言葉、やちょっとした相槌のようなコメント（例えば、「なるほど。(I see)」)なども、自分が書いたことを理解してもらえた証拠なんだと嬉しく思い、そのおかげでもっと書こうというやる気になったと言った。また、面白いことに、サムは自分に自信をつけさせるためにこのように沢山褒めてくれているんだということにも気づいていたという。一言の励ましから、励ましの言葉全般の自分のやる気に対する影響についてまで思索が深まったというのは感慨深い。

3つ目は、サムの「プラクティスセンターに行って話す内容は考えてある？(Have you thought about what you will talk about at the practice center?)」というコメントだ。マユミは語彙学習ばかりで、その学習した語彙を実践で使う機会を模索しており、自分からプラクティスセンター（学校に設置されている、教師と1対1で会話の練習が15分できる施設）へ行こうと予定していた。そこで、サムは、行く前に事前に話す内容等を決めて、その内容について話す準備をするという思いからこのコメントを書いた。実際マユミは何となく行こうかなと具体性を持たずに予定をしていたため、具体的に何を話すのか尋ねられたことにより、自分の本音としては、本当はあまりプラクティスセンターへ行きたくないというのを実感した。そして更に、その理由について分析をした。

インタビューの中で彼女は、いくつかの理由の説明をしてくれた。1つには、そのセンターは普段はクラスの課題の時にしか使用せず、課題用のトピックはグローバルゼーション等の難しいもののため、固いイメージがあり、行くのに緊張

してしまうという。また、そのセンターでは、会話相手の教師と向かい合わせて座るため、まるで面接のような感覚を覚えて、それも更に緊張させる理由だという。更に、課題以外で行くとなると、自分でトピックを考えなければならないが、何を話せばよいかわからないため、不安になってしまうようだ。

サムのコメントをきっかけに考え、自分が普段気づいていなかった、プラクティスセンターに行くことに対する不安の理由を発見するまでに自己発見を深められたというのは、非常に卓越した思索力だと言える。

次に、アイナのケースについて紹介する。彼女が自身の理解を深めたコメントは以下の2点である。

表9. アイナがハイライトしたコメントとその理由

	LAのコメント	このコメントが深く考えさせるといった理由
1	How was the pronunciation software?	私にとって新しく、しかも身近にある勉強法を示されることによって自分はあまりTRY精神がなくて、身近な、良いモノに気付いていないことに気付いた。
2	How do you think you can practise speaking for longer? Won't it depend on how much knowledge you have about the topic?	この一言で、私は自分はより長く話したい、深い話が外国の人としたいんだと気付いた。そのためには多くの知識が必要だと分かった。

1つ目は、サムの「その発音ソフトはどうだった？ (How was the pronunciation software?)」というコメントである。アイナはこの週、サムに薦めてもらったある発音ソフトを初めて試したが、それについて何も感想が書いていなかったため、サムはこのコメントを書いた。インタビューでサムは学習に使う教材はモチベーションに大きな影響を与えるものであり、慎重に吟味して自分やゴールにきちんとあったものを使用すべきだと考えているため、学生にはいつも使用教材についての評価を行うよう必ず奨励すると回答した。今回のコメントもそのような意図

があった。

一方、このコメントを読んだアイナは、このソフトは身近にあったにも関わらず、サムに教えてもらう前は自分はその存在を知らなかったことを改めて鑑み、「自分はあまりTRY精神がなくて、身近な、良いモノに気付いていないことに気付いた。」という。この気づきの後、今まで1つの本をメインに学習していた彼女は、新しい本を使い始めた。

もう1つのコメントは、「長く会話できるようになるためにはどんな練習ができると思う？（それは、話しているトピックについてどれだけ知っているのかもかかってくるんじゃない？）（How do you think you can practice speaking for longer? Won't it depend on how much knowledge you have about the topic?）」というコメントだ。リフレクションで、アイナがあまり会話が続かないという悩みを打ち明けてきたことに対するコメントである。サムはこのコメントを通して、彼女に長く話せない理由が英語力のせいなのかトピックに対する知識不足なのかきちんと把握するように奨励したかった。一方、このコメントを読んだアイナは、「この一言で、私は自分はより長く話したい、深い話が外国の人としたいんだと気付いた。そのためには多くの知識が必要だと分かった」。サムの一言をきっかけに、彼が意図した「長く話せない理由」を探ることはできなかったが、「自分が何故、長く話したいと思うのか」、強いては「何故英語で会話をしたいと思うのか」という所まで掘り下げて考えることができたようだ。そして自分について更に理解を深めることができた。

上記で描写したとおり、マユミおよびアイナはまさに自身の学習、および思考を自身で導いているということが感じられる。彼女らは、ラーニングアドバイザーからのコメントをきっかけとし、自身の学習における次のステップや他の関連したトピックへ思考を広げている。但し、マユミとアイナのコメント解釈の発展のさせ方を見てみると、多くの場合、サムのコメントを彼の意図とはあまり関係ない方向に発展させている点はどうとも受け止めがたい。意図が通じていないことを憂うべきか、それとも、その意図とは関係なく、与えられたコメントから連想

を通してさらに自分理解を進めていっていることを喜ぶべきか、難しいところである。

結論

Bangert-Drownsら(1991)は、フィードバックには「外から与えられるフィードバック」と「自身の学習タスクへの取り組みをモニターし、自身で創造するフィードバック」の2種類があると説明する。この後者の自己創造型のフィードバックは「Self-knowledge」を築き上げていくのには必須と言っても過言ではない。マユミとアイナのコメント解釈を通しての自己理解への発展は、この自己創造型フィードバックであると思えば、その価値の深さを真の意味で見極めることができるのかもしれない。当自立学習スキルトレーニングの最終目標は、アドバイザーの果たす教師、サポーター、模範、カウンセラー、およびスポンサーおよび交友者 (teacher, encourager, role model, counselor, and sponsor-socializer) (Selke & Wong, 1993) といった複数の役割をいずれかは自分自身が担えるように成長することであると思うと、自身で思索を深め、フィードバックを自身で創造するという作業は自立学習者への大きな一歩と言えるであろう。

このような、マユミとアイナのような自己創造型のフィードバックを自身に投げかけるまでの段階にまだ到達していないサキとショウコに共通する特徴の1つとしては、モジュールのジャーナルに書く量がマユミやアイナと比べて断然少なく、また、提出回数も非常に少ないことである。必然的にサムとの対話の量も比較的少なくなり、質に関しても深い内容まで掘り下げることができないということになる。

この対話量の違いの原因がどこから来るのか、それを探るには、また新たに別の研究調査を必要とする。それでも敢えて可能性のある要因を推測すると、1つとしては、LAとの関係があげられる。マユミとアイナにモジュールを継続する理由を聞いた際、2人共、他の2人に比べてサムの存在の大きさを特に強調していた。2人にとってサムはいくつかの役割を果たしていた。例えば、ラーニングア

ドバイザとして、自立学習のアドバイスをする以外にも、IELTSや英会話の練習相手になったり、SALCへ行った時に声をかけてくれる相手だったりしたようだ。このようにサムから様々なサポートを求めている姿勢からも、彼女達にとってのサムの存在の重要性が伺えると言える。彼女達は、サムのアドバイスからもなるべく多くを学ぼうと、そこに大きな価値を見出していたのではあるまいか。その価値創造の姿勢が、自身を更に理解してゆける深い思索へとつながっていったのではないだろうか。

このケーススタディから学べることは、ラーニングアドバイザーが、様々な思いを込めてアドバイスを書いても、思い通りにメッセージが伝わらない際に、それは一重にアドバイザーのアドバイジングスキルに非があるというわけではなく、学生はそのアドバイスをきっかけにし、意図とは異なっても、自身なりの考察を深めている可能性もあるということを中心にとどめておくべきということであろう。また、学生が現在どの程度の意識をもってモジュールに取り組み、何をモジュールから得ようとしているのを敏感に察し、彼らの自立学習スキル発達段階に合わせたアドバイスをする必要があり、ということである。ある程度自己創造型フィードバックができるような段階まで進んだ学生には、LAのコメントを、「学生が自己理解を深めるためのリフレクションをするきっかけ」として与えていくのが最善であり、また、このようなりフレクションが当自立学習モジュールの目指すべきものだと思う。

参考文献

- Bangert-Drowns, R., Kulik, C. C., Kulik, J. A., & Morgan, M. (1991). The Instructional effect of feedback in test-like events. *Review of Educational Research*, 61(2), 213-238.
- Mynard, J. & Navarro, D. (2010). Dialogue in self-access learning. In A. M. Stoke (Ed.), *JALT2009 conference proceedings* (pp. 95-102). Tokyo: JALT.

- Noguchi, J. & McCarthy, T. (2010). Reflective self-study: Fostering learner autonomy. In A. M. Stoke (Ed.), JALT2009 Conference Proceedings. Tokyo: JALT.
<http://jalt-publications.org/archive/proceedings/2009/E051.pdf>
- Noguchi, J. (2010) Helping Learners Develop Reflective Skills Through Critical Dialogue. In Head, E. & Kiernan, P. (Eds.), *Learning Learning* 17, No. 2 Autumn 2010. Retrieved from <http://ld-sig.org/LL/17two/2010b.pdf>
- Selke, M. J., & Wong, T. D. (1993). The mentoring empowered model: Professional role functions in graduate student advisement. *NACADA Journal*, 13(2), 21–26.